

令和 8 年度 第 1 回ナセBA運営協議会議事録

1.開催日時

令和8年 8 月 4 日(火) 午後3時～午後 5 時

2.開催場所

ナセBA1階・体験学習室

3.出席者（委員 9 人、事務局 9 人、合計 18 人出席）

（委員）

我妻 仁(会長)、畑田 秀将(副会長)、

阿部 文、伊藤 由美子、情野 美紀、細谷 信義、近野 智子、田中 明子、平間 みゆき

（事務局）

曾根 伸之、渡部 洋己、設楽 由加利、高橋 修、遠藤 朋香、齊藤 かおり、福石 敏史、

宮澤 崇土、花田 美穂

4.開会

5.理事長挨拶

委員の皆様には、ナセ BA 運営協議会委員をお受けいただき感謝申し上げます。それぞれのお立場からご意見を頂戴したい。

ナセ BA は今年 10 周年を迎えた。今年 2 月には来館者数 300 万人を達成した。昨年度は、図書館は 18 万 2 千人、学習室は 8 万 2 千人、市民ギャラリーは 4 万 8 千人、計 31 万 2 千人の利用者を数え、前年度より増加した。郷土資料等を活用した先人顕彰コーナー（多目的展示室）や生涯学習に関わる各種講座、図書館フェア等も多くの方にご利用いただいており、一定の評価を頂戴している。

先人顕彰コーナーでは、7 月 22 日まで館蔵の写真資料を紹介する「写真で見る米沢パート 8」を開催していた。また、8 月 8 日からは市民ギャラリーの自主事業「中村隆行ペーパークラフトの世界展」が始まる。今年は昭和 100 年ということもあり、昭和や平成を顧みることと今の時代を考える大事な時期ではないかと思う。街並みや街の役割は市民の生活スタイルや時代と共に変わる。文化施設の役割もまた、街並みの変化と共に変えていかなければならない。過去から何を学び、これからの時代に何をどう活かしていくかを考えなくてはならない。

市立米沢図書館の目指す姿は「歴史に学び、今を生き、未来を創る市民の図書館」であり、また、今年度の重点目標は「居心地のよい一層利用される図書館作り」としている。その点についても、様々な角度からご意見を頂戴したい。

6. 会長挨拶

再任された方、新任の方、様々な立場の委員の皆様から新しい視点で活発な議論をお願いしたい。この協議会が単なる事務局の説明とそれに対する質問だけではなく、皆様 1 人 1 人が利用者として、市民として、意見、感想、要望を遠慮なく話せるような雰囲気を作っていききたい。

協議会で出された新しい意見やアイデアが活かされ、改善されていることを実感している。協議会は非常に大事な役割を果たしていると思う。2 年間共に協力し合いながら協議会を進めていきたい。

7. 協議

(1) 令和7年度事業報告及び事業評価について

事務局から資料に基づき説明。【資料 1】【資料 2】【資料 3】【資料 4-1】【資料 4-2】

【委員】

米沢市と同じような人口規模の都市の図書館と来館者数の比較をしているか。

【事務局】

3 年前、米沢市民 1 人当たりの年間貸出冊数は、5.2 冊程度だった。県内の公共図書館で 5 冊を超えていたのは、当館の他 2 館だったと記憶している。当館は県内では図書購入費も比較的多い状況であることも一因かもしれない。しかし、昨年 の 1 人当たりの年間貸出冊数は 4.8 冊まで下がっており、読書離れが進んでいるのかもしれない。

(2) 令和8年度事業計画について

事務局から資料に基づき説明。【資料 5】【資料 6】【資料 8】【資料 9】

【委員】

自動車文庫が巡回する高齢者施設は何力所あるのか。

【事務局】

火曜日から金曜日までの巡回日は、高齢者施設は毎日ほぼ1ヶ所は巡回している。詳細は資料の巡回場所を参照されたい。

【委員】

今年度の目標の「利用者の目線に立ち、探しやすい書架づくりを行う」とは、具体的にはどういったことか。

【事務局】

具体的な取り組みとしては、まず、開館までの時間を書架整理の時間に割り、担当者や場所のスケジュールを明確にして、書架整理を行っている。また、所蔵数が多い日本の小説に、不足している著者名のインデックスサインを少しずつ追加している。

【委員】

「本と雑誌のリサイクル市」は、廃棄本をどこかに置いて希望者が持ち帰る企画か。

【事務局】

毎年、読書週間図書館フェアで行っている取り組み。当館の所蔵図書は、米沢市の備品でありリサイクル市で頒布することができないため、保管期限が過ぎた雑誌や、利用者から寄付をいただいたもので既に当館に所蔵がある、あるいは選書基準から蔵書として受け入れるという判断に至らなかった図書を提供している。

【委員】

先日、市民ギャラリーで開催した米沢アンデパンダン展である方から美術雑誌や展覧会の図録など125冊を提供いただいた。1人5冊まで自由に持ち帰ることができるコーナーを設け、会期最終日に全てなくなった。

例えば、ギャラリー展示と図書館の連携で、展示の関係資料を図書館で提供すれば関心を集められるのではないか。

【委員】

5年ぶりに実施するというアンケートは、来館者対象なのか、それとも図書館を利用していない方も含めるのか。また、紙ベースか、2次元コードなどから回答できるものなのか。2次

元コードを入れた紙だと簡単に配布できるため、商工会議所の会員に配布する等様々な方法が取れる。

【事務局】

5年前と比較するためには来館者アンケートも必要だが、図書館を利用しない方の声もお聞きしたいので、そういった方へのアンケートについても今後調整したい。アンケートの取り方についても検討したい。

(3)これからのナセ BA に期待すること

【委員】

外部団体とのコラボや情報の発信もされている様子がよく分かった。

利用者は増加しているが貸出は伸び悩んでいるという報告だったが、数字は一つの指標に過ぎない。座席数が多いなど利用環境が良く、居心地が良くなればなるほど、わざわざ借りなくとも良いという考えになることもある。いつも高校生で座席が溢れている図書館は貸出数が多くなってくるので、様々な施策の結果が表れてきているように感じた。

学習室利用者数は堅調に伸びているが、図書館に誘導するような施策は行っているか。

【事務局】

去年に引き続き今年度もティーンズサポーターにおすすめしたい本のポップ作りに取り組んでもらう予定になっている。今年もティーンズサポーターの活動を通してティーンズコーナーを充実させていきたい。

【委員】

様々な資料を拝見し、きめ細かに多彩で多様な手立てがなされていることを改めて感じた。

先日のアンデパンダン展では、高校生以下の子どもたち 35 人の共同集団製作作品を出品した。彼ら彼女たちが未来のアーティストになることを期待して展覧会に迎えている。こういった活動の継続がナセ BA の未来を作っていく。1 人の子どもが作品を出品すると 10 人位の親戚や知人が展示を見に来る。そういうことの積み上げが将来のギャラリーや図書館の利用者を育てることに繋がると思う。10 周年の様々な企画や今後の図書館に期待をしている。

【委員】

米沢商工会議所新会館の愛称が、上杉鷹山の「なせばなる」から取って「NARUBA」に決定した。新会館には山形県の施設や地域産業振興センターの他、ミニキッチンを整備しており、飲食店の創業予定者や一般の方にも幅広く使っていただくことができる。

商工会議所は、今年創立 80 周年を迎え、ナセ BA の 10 周年と合わせて 11 月に様々なイベントを企画している。商工会議所は米沢で商売を営む会員を支援する団体だが、高校生や大学生と企業を結びつける事業も行っており、コラボやワークショップ等も検討している。ナセ BA の学習室でワークショップを開き、商工会議所新会館で交流会もできる。連携して様々なことを企画していきたいと思っている。

新会館には来館者数をカウントするセンサー機能も備える。男女別来館者数の統計も取る予定のため、1 年後の協議会時には報告できると思う。

【委員】

今回初めて運営のことについてお伺いし、様々な取り組みをされていることが分かった。

ナセ BA 建設時にバリアフリーやユニバーサルデザインの観点から誰でも利用しやすい建物を作るための意見をお伝えして要望を取り入れていただいた。また、昨年、障害のある方への対応をテーマとした図書館職員研修の講師を務めたことを機に図書の貸出や学習室の利用をしている。

70 歳以上の利用者が増えていることから、居場所としての位置付けが強くなっているのではないかと言っていたが、私もナセ BA に来れば 1 日過ごすことができる。以前 1 階にカフェがあった時は、作品を見た後に感動を分かち合う交流の場となっていた。今は休憩場所となって昼間は利用が多いようで、やはり大切な居場所となっている。

来館が困難な人には自動車文庫もあるが、外出の機会も必要だと思う。高齢者や障害のある方、引きこもり気味な方等にとって、本を借りに来ることが外出の機会になり、居心地の良い場所になると良い。本に親しむ、芸術に触れる、学習室を利用する等、1 人 1 人の楽しみ方がある。そういった場所として、さらに充実していくと良いと思う。

バリアフリーやユニバーサルデザインについては、スマホでかざすと音声案内が出る「ナビレンス」をいち早く取り入れていただいた。色々な方に配慮されていることを皆さんに知ってほしい。東北芸術工科大学の学生にもナセ BA の取り組みを紹介している。

ナセ BA を利用している時に大きな災害が起きた場合、多様な方が利用されていると思うが、こういった対応をしているか。

【事務局】

年に2回、避難訓練を実施している。今年は、地震から火災が発生した場合の対応も含めた避難誘導を行った。この施設は火災の危険は少ないが、電子機器による発火も考え得るため、そういった想定も訓練に取り入れていきたい。本が落下するというリスクは危険度が高い。本棚はしっかり固定はされているが、ガラスの破損等様々なリスクが考えられる。今後も地震や出火を想定した訓練と並行し、避難訓練を進めていきたい。また、ナセBAは一時避難所の指定を受けているため、避難所としての機能や災害時対応については、今後も検討していきたい。

【委員】

ティーンズサポーター活動は、高校生が本に親しんだり司書になりたいなどの夢を持つ場になり、とてもいい経験だと思う。

また、大人のための本のしろく通帳も良い企画。図書カードは記録が消えてしまうためもっと早く実現してもらいたかった。

【事務局】

大人のための本のしろく通帳抽選会は、現在第1回目の募集を8月9日まで行っている。第1回と第2回で50部ずつ用意しているが、本日午前の時点で申込者が219人に達している。想定を超える人数が関心を持っていることが可視化され、今後の運営を考えていく上で重要な情報が得られた。(追記:第1回応募総数は229名となった。)

【委員】

様々な活動やイベントをされていることを改めて感じた。一市民として、図書館に行きたい気持ちが高まった。

絵本を通して、親子の関係性や子どもたちの情緒を育みたい。子どものスマホ利用が多くなっているが、絵本を囲んで友達と語り合ったり、親子でお膝に抱っこしてもらいながらの読み聞かせを進めていきたいし広めていきたい。家読の活動を幼児施設に広めていきたい。

自動車文庫を利用している幼児施設が少ないと感じたため、利用方法を周知してほしい。私も委員として発信していきたい。

【委員】

置賜地区の図書館が次々と新しくなり、魅力的な図書館が増えている。様々な図書館を見ると、子どもも大人も居心地良く過ごせることは本当に大事だと思う。例えば県立図書館

や長井市立図書館では、ソファ席や1人用の椅子がよく利用されている。景色を見ながらゆっくりゆったりと座って本を読む大人の姿をよく見かける。今、生徒の学習利用が非常に多い状況では難しいと思うが、そういった場所があるとよりくつろげるのではないかな。

また、来館者数の増加に対して貸出冊数が減少しているということだが、パソコン利用者も多いようなので、貸出冊数が増えないのではないかな。県立図書館では一昨年度より電子書籍を導入している。良し悪しは別として、若い世代にとっては来館せずとも読書する機会が増えたと言える。また、中学校や高校ではキャリア教育に力を入れているため、商工会議所新会館で中高生向けのワークショップ等を行う時に、図書館に関連書籍のコーナーがあればなお良いのではないかな。

ナセ BA は一時避難所になっているため、図書館の本が書架からたくさん落ちた場合のことは想定しておいた方が良い。

【委員】

ナセ BA の細やかな取り組みにますますファンになった。自分に何ができるか考えたことをお話ししたい。

毎月の自動車文庫の巡回はありがたい。巡回時間を放課後から児童の利用が多い中間休みに合わせて変更するなど調整いただいている。他の市町村では、予算の関係で移動図書館が少なくなっているようだが、米沢市はぜひ続けてほしい。また、夏休み前の貸出状況があまり良くなかったのは、返却日が夏休み期間中に当たるため保護者が借りないよう言っていたようだった。自動車文庫の担当職員から、夏休み後の返却が可能と聞き、特別な場合は情報共有が必要だったと反省した。

小中学校では、米沢市子ども読書活動推進計画について知っている方がほとんどいない。学校として何をすべきか、どのように本好きの子どもを育てていくのかといったことが教員まで伝わっていない。学校図書館部会あるいは校長会を通じて、毎年計画内容を確認していきたい。

今年の夏休みは、おうちの方と一緒に本を読む、おうちの方が読み聞かせをする、子どもがおうちの方に読む、きょうだいに読み聞かせる等、内容は各家庭にお任せして、本に触れた取り組みをカードに書くという親子読書の取り組みを行った。また、学校だよりにナセ BA のホームページの2次元コードをつけたり、学校のスケジュールに家庭読書の日を記載して、おうちで読書をしましょうと積極的に呼びかけていきたい。

1人1台タブレットを持っているため、本で調べることが減っている。図書館が本を読む場所だという認識はあるが、情報センターとしての役割もPRしていきたい。先日、学校の玄関

に紅花を飾っていた際、児童が花の名前を知らなかったので、図鑑で調べてみようと教えた。図書館で調べられることを小学校のうちから教えなくてはいけないと思った。

高校生は、入学式の時に図書館の利用者カードを持っていない生徒に登録してもらってはどうか。学習利用は頻繁にするがカードを持っていない生徒もいるようなので、カードを持っていれば借りるのではないかな。

山形市で、隣に映画館がある書店があり、上映する映画の関連本をたくさん紹介している。もし連携ができるのであれば、米沢市で上映する映画に関する本が米沢図書館にあるという情報を出して、映画館から図書館に来る人の流れを作れないかと思う。

【委員】

以前は読み終えた本を譲るリユースコーナーがあったが、ぜひ復活してほしい。人気の本を予約すると予約者が非常に多い。リユースコーナーを利用して、人気の本を購入し読み終えた方に提供を呼び掛けると、不要な本の再利用ができると思う。

年齢別貸出状況を見ると、30～40代が少ない。子どものいる親世代だとすると、やはり親子の読書、親子で一緒に家庭で読書をする機会が少ないのだろうと考えられる。商工会議所が移転するため、若手経営者にも利用者カードを作ってもらい、お子さんがいる家庭では親子で借りて読むことを推進するような展開もお願いしたい。

開館から10年経つため、そろそろ中の配置をリフレッシュしてはどうか。今は、1人1人が思い思いにソファでくつろぎながら読書するのを好む傾向にあるように思う。マンネリ化しつつあるので、すぐにというわけにはいかないがレイアウトの変更を検討してほしい。

8. その他

【委員】

この協議会で壁面書庫を見る機会を作してほしい。

【事務局】

次回、30分程度時間を確保したい。

9. 館長御礼

長時間にわたるご協議に感謝申し上げます。本日も様々な視点から温かく、かつ新たな視点を頂戴した。

今年は300万人達成、そして10周年を迎え、数字だけでなく、その奥に潜むたくさんの方々のご利用、ご支援があって今があることを改めて実感した。

今、夏休みこども図書館フェアを開催しており、その中のイベントの司書体験に、小学生 8 人の参加があった。本の修理と排架を行い、「普段できないような体験ができてとても良かった。」「図書館の本は丁寧に修理しているからこんなに綺麗なんだなと思った。」などの感想を書ってくれた。保護者からも「子どもたちが目を輝かせて体験していて嬉しくなった。」「普段何気なく借りている本が、こんなにも手間をかけることで、良い状態を保たれているのだということを知り、これからはもっともっと大切に思う。」などの感想をいただいた。

また、先日のティーンズサポーターの活動で本の修理を行った高校生は「地道な作業だが、修理しているのがかっこいいと思った。」「糊付け作業に神経が削られたけど、し終えたときには達成感と心地よい疲労感があった。」「修理しなくてもいいように、もっと本を丁寧に大切に扱いたいと思った。」などの感想を持ってくれた。図書館の応援団がまた増えたと思った。

市民の皆さんやより多くの子どもたちに、本に触れる喜びであったり、素敵な本との出会いであったり、そしてここが芸術文化の拠点となるように、これからも職員一同アイデアを出し合いながら、精一杯努めてまいりたい。引き続きのご指導ご支援をお願い申し上げます。

10. 閉会